

車いすの改良サービス...快適な福祉生活を応援



障害者や高齢者に安全で機能的な福祉用具を低価格で提供しようと、山形県米沢市の福祉用具製造販売業渋谷保さん（36）が、厚労省の「創業支援助成金」を受け、新会社「クリエイティブスタジオ」を設立した。使用者の体格に合わせた福祉用具の改良など、きめ細かな対応を基本に、障害者の生活の質向上を目指す。

渋谷さんは米沢市出身。東京のデザイン専門学校を卒業後、山形県高畠町にある重度身障者用福祉用具を受注生産する工房で働いていたが今春、より広いニーズがある軽度障害者向けの商品開発を目指し独立した。

現在、計画しているのは障害児が家庭内で使用するいすの開発と、介護施設入所者向けの車いすの改良サービス。

試作した障害児用のいすと渋谷さん

障害児用いすは既製品が2歳以上を対象としているのに対し、1歳から使用可能とした。無公害塗料を採用して安全面にも配慮し、部品の標準化で価格を抑えた。

施設で試作品のテストが行われており、早期の商品化を目指す。価格は5万—6万円を予定している。

一方、車いすの改良は、施設の入所者が体格に合わない既製品の車いすを使うことで健康を害しているケースがあることに着目。使用者が正しい姿勢をとれるよう、体格に合わせて調整する。改良を専門とする事業者は、ほとんどないという。

渋谷さんは「障害の態様はそれぞれ異なり、大量規格品での対応にはもともと無理があった。ニーズに合ったサービスを提供することで、使用者の快適な生活の実現に貢献したい」と話している。連絡先は0238(22)6632。

2006年09月17日 日曜日

